



軽度発達障害のある子どもの保護者を支援する講座が始まった＝5月30日夜、新潟大教育人間科学部付属養護学校

# 「褒める姿勢大切に」

軽度発達障害児 親支援講座始まる

新大など

学習障害（LD）や注  
欠陥・多動性障害（A  
HD）など軽度発達障  
害のある子どもの保護者  
を対象とした公開講座が  
五月三十日、新潟大教育  
人間科学部付属養護学校  
で始まった。  
講座は、講師を務める

長沢正樹・同学部助教授の研究室と同校、LD児らの親の会「新潟いなほの会」が主催。「親支援プログラム」として、本年度初めて開いた。

七月まで四回の講座では、長沢助教授が講義し、同校教諭が具体的に実践、さらに助言者がついて親の疑問に答える。「新潟大方式」と名付けたプログラムで、子どもの問題行動へのかかわり方を、実際の場面に添って学ぶ。今後、中越地方での開講も検討する。

初回の講座には、四十人余りの保護者が小グループに分かれて参加した。長沢助教授は子どもの行動分析手法を解説。

特に「望ましい行動に導き強化するため、できたことを具体的に示しながら上手に子どもを褒めよう」と強調した。発達障害の子どもの多くは褒められることが少ないといい、「褒められ注目

されることで自己肯定感や自尊心が育つ」とした。五泉市から参加した母親は「大声を上げる子への対処が分からず気が空回りしていたが、助言を受け希望を持

つことができた」という。行動分析の手法を学んだ新潟市の母親は「パニックを起こす子どもに対してすぐにしかるだけだったが、今後は冷静に考えたい」と話していた。